

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	乙 第 3159 号	氏名	星 茜
論文審査担当者	主査 川添 和義 副査 巖本 三壽 副査 亀井 大輔		
<p>論文題名 : <b>Survey of the time-onset profiles of nedaplatin-induced adverse events in head and neck cancer therapy.</b> (頭頸部癌患者を対象としたネダプラチンを含む化学放射線併用療法における有害事象発現時期に関する検討)</p> <p>掲載雑誌名 : Japanese Journal of Cancer and Chemotherapy Vol.48 No.2 p.207-210. 2021 年掲載</p> <p>本研究は、頭頸部癌患者を対象として、ネダプラチン (CDGP) によるレジメンが来す副作用について、その発現時期を精査したものである。</p> <p>2012 年 4 月～2015 年 3 月に昭和大学病院で CDGP, テガフル・ギメラシル・オテラシルおよび放射線併用療法を受けた頭頸部癌患者を対象とし、診療録等より検査値異常と口腔粘膜炎の重症度と有害事象の発現時期を後向きに調査した。対象患者 38 名 (男性/女性 : 32/6 名) において血小板数は中央値 28 日目 (21～49 日目) の期間に最低値となり、白血球数も同様の傾向であった。血清クレアチニン値の Grade1 以上の症例は 5 名のみであった。口腔粘膜炎では 30Gy (21 日目) で 20 名が Grade2 以上を発現した。以上より、治療開始から 3 週間程度で有害事象の発現時期が重なっていたことから、これらの時期を想定して重篤化回避に備えることが重要であると考えられた。</p> <p>本論文は、これまで精査されていなかった CDGP による副作用発現時期を初めて明確に示したものであり、臨床薬学領域に重要かつ新規知見を与えるとともに、今後の薬剤師業務に大きく資するものである。本論文は本学大学院学位論文(博士)審査基準を満たしており、学位論文に値すると判断した。</p>			

(主査が記載, 500 字以内)